

臨床研究へのご協力のお願い

東京医科大学分子病理学分野では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の承認のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さんのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、患者さんに診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究課題名]

Trousseau 症候群の血栓形成に関する免疫組織学的検討

[研究の背景と目的]

Trousseau 症候群 (以下、トルソー症候群) は腫瘍随伴症候群のひとつで、悪性腫瘍に伴って血液が固まりやすくなり、血栓を形成する病態です。トルソー症候群を起こしやすい腫瘍の種類としては、腺癌が多いと報告されています。トルソー症候群における血栓形成の原因としては、腺癌から分泌される粘液 (ムチン) や、腫瘍細胞から分泌される因子が関与しているとされています。

このように、トルソー症候群で形成される血栓は腫瘍から分泌される粘液(ムチン)が関与していることが明らかになっていますが、組織において免疫組織化学的な特徴はわかっておらず、は十分な研究は行われていません。そのため、トルソー症候群について病理解剖を行なった検体について、免疫組織化学的染色を行い、腫瘍および血栓の免疫組織化学的特徴を調べます。新たな診断法・治療法・予防法のための知見を得ることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる方

東京医科大学分子病理学分野にて、2002 年 1 月 1 日 から 2021 年 12 月 31 日までの間に、病理解剖を受けた方で、以下に該当する方

- ・癌と診断された患者様で、脳血栓や肺動脈塞栓などがみられたトルソー症候群の症例
- ・癌と診断された患者様で、血栓がみられなかった (トルソー症候群ではない) 症例
- ・癌ではないが、門脈血栓や肺動脈塞栓など血栓を有する症例

●研究期間

研究機関の長の許可日より 2024 年 12 月 31 日まで

●利用する検体やカルテ情報

本研究では、病理解剖後に作成され保存されている病理標本スライド、パラフィンプロックと剖検報告書に記載されている臨床情報(性別、年齢)を使用いたします。

●検体や情報の管理

臨床情報に関しては、既存の解剖報告書から収集します。病理標本スライドについては、当分野に保存してある既存のスライドを使用します。また、免疫染色を新たに追加するために、標本作成に必要なパラフィンプロックを使用します。標本の作製や染色は全て当科研究室で行います。作成されたスライドガラスや情報に関してはこの研究以外には使用せず、研究終了後 5 年間もしくは本学の規定で定められたいずれかの遅い期間まで保管します。

[実施体制]

研究責任者: 東京医科大学分子病理学分野 山田侑子

研究分担者: 東京医科大学分子病理学分野 黒田雅彦

東京医科大学分子病理学分野 藤田浩司

[個人情報の取扱い]

病理標本スライドについては、当分野に保存してある既存のスライドを使用します。研究実施場所にて、ラベル上の病理番号と独立した番号を付与します。臨床情報については、解析に必要なもの(性別、年齢)のみを取得し、同じ番号で取り扱います。研究において、全ての情報は同じ独立した番号のみで取り扱われ、名前や生年月日などの個人情報は一切残しません。病理番号とこの独立した番号の対応表は存在しますが、あくまで情報の取違等を防ぐために使用するだけであり、これらの番号から個人を特定することは不可能となります。また、結果の公表については、個人が特定可能な形で行うことはなく、研究対象者が不利益を蒙ったり、人権が侵されたりすることはありません。

管理責任者: 東京医科大学分子病理学分野 山田侑子

[問い合わせ先]

東京医科大学分子病理学分野

研究助教 山田侑子

電話番号: 03-3351-6141 (内線) 235

e-mail: yamayu@tokyo-med.ac.jp